



(題字・葛西 聖司)

CONTENTS

- 1ページ ★「良いこと」とは・山崎厚太会長
- 2ページ ★2001年度総会議案報告
- 3ページ ★総会、懇親会レポート
- 4ページ ★会員からのエッセー『50歳になって思うことって何…!?』
- 5ページ ★台湾同学会交流同行記 ★新年会の案内
- 6ページ ★在学中に活躍した同期のスター・吉田 親氏
- 7ページ ★大阪分会設立を!! ★グルメの会設立準備行
- 8ページ ★同期会ってここがグーッ!! ★会費納入のお願い ★編集後記 他

2001年度総会が開かれた!!



「良いこと」とは

49年白門会会長 山崎厚太



である。田畑を潤し、草木を養い、魚を育てながら、決して高さを望まず低い方へと水の流れの如く私も流りたい」

身近な所に良いことが

支部が発足してから1年以上たちましたが、この間「何かすっきりしない」ことが多くなりました。というより、前後左右取り囲まれていくようです。私自身、オーム裁判の弁護士に対応で、司法に対する信頼感を著しく損なっています。昨年5月、暴走族に短銃を突き付けたとして懲戒免職になった長野県警の警官が、一転6か月の停職になったことには少しすっきりしています。

さて、人生をすっきり生きるにはどうすればよいのでしょうか。「良いこと」があればよいのでしょうか。

次のようなことを聞きました。
人生とは、「水のごとくよどみなく、さらさらと流れ、「どんな良いこと」があっても、どんな悪いことがあっても後ろを振り向かず、前へ前へさらさら流れ、左右の岸にどんな美しい花が咲いていても、どんなに楽しく小鳥が鳴いても、その美しさを営めながら、その美しさを喜びながら、足踏みせず流れる。流れる水は凍らぬとか、流れる水は腐らぬとか、それが生きておるといこと

人生は邪見と執着をせず、「良いこと」があつても慢心することなく、人様の幸福を心の底から喜び、妬みがなく、私たちはいつもあれも欲しい、これも欲しいの連続であるが、他人様の美しい名譽、愛、健康、美などを営めながら喜びながら、捕らわれる事なく流れようというのです。高慢な思い上がりや、怒、痴に浸ることを、できるだけ戒めていく人生、明るい暖かい人生のことです。

では、具体的な「良いこと」とは、私の思いつくのは「良いこと」はやってくるのではなく、探して発見するものだということです。既に身近で自分が手にいれているものの価値に気がつかない事はないでしょう。

これに気がついた事自体が「良いこと」ではなからうかという気がしています。私は今手に入れているものの価値を認めながら、新しい事もやってみようとしています。49会も「良いこと」を発見し、新しいことをやってみたいと思います。

【49年白門会2001年度総会】

平成13年6月30日(土)、後樂園にある中央大学理工学部校舎の教室で2001年度の『49年白門会』の総会が35名の出席のもと開かれた。大阪に関西支部を作ろう、という大阪在住の出席者から建設的な意見も出て総会は盛り上がった。4つの議案は滞りなく可決された。

■第1号議案

2000年度活動

報告について

2000年7月2日(2001年3月31日)

1・2000年7月2日(日)

中央大学49年白門会設立総会・記念パーティー

(中央大学駿河台記念館・60名参加)

2・2000年10月8日(日)

第11回中央大学ホームカミングデー参加

(中央大学多摩校舎・13名参加)

3・2001年1月27日(土)

中央大学49年白門会新年会

(中央大学市ヶ谷キャンパス・31名参加)

4・中央大学49年白門会会報の発行

第1号・2000年9月19日(火)

5・中央大学49年白門会幹事会活動

第1回・2000年9月19日(火)

第2回・2000年12月5日(火)

第3回・2001年2月21日(水)

第4回・2001年3月6日(火)

■第3号議案

2001年度事業

計画案について

1・「中央大学49年白門会」事業計画基本について

会員相互の親睦・交流、会の組織強化、中央大学および学員会他支部

2000年度収支決算について

■第2号議案

(単位 円)

〈収入の部〉

費目	決算額	摘要
会費収入	1,651,000	(入会金@1,000×177、会費@3,000×32、@9,000×137、@19,000×1、@29,000×4、@6,000×1、@4,000×1)
懇親会収入	555,000	(設立パーティー@8,000×50、新年会@5,000×31)
雑収入	430,391	(設立パーティー寄付金他)
合計	2,636,391	

〈支出の部〉

費目	決算額	摘要
通信費	370,871	(郵送料、はがき代)
事業費	150,015	(会報制作費他)
事務費	64,326	(会旗制作費・印鑑代他)
懇親会費	523,068	(設立パーティー・新年会飲食費他)
交際接待費	0	
雑費	40,530	(郵便振替手数料、学員時報広告料他)
次年度繰越金	1,487,581	
合計	2,636,391	

との交流を図るための活動を行う。

(1) 親睦会・懇親会等の開催と各種同好会活動の実施

(2) 会名簿の発行と会報の発行

(3) 新規会員の勧誘

(4) 中央大学学員会他支部との交流

2・2001年度事業計画(案)について

(1) 「観桜会」への参加

(2) 「ホームカミングデー」への参加

(3) 「新年会」の実施

(4) 「ハイキングの会」「グルメの会」の発足

(5) 「中央大学留学生」への支援

(6) 「中央大学留学生の集い」への参加

(6) 関西分会結成に向けての事前活動等々

■第4号議案

2001年度予算案について

〈収入の部〉

費目	予算額	摘要
会費収入	345,000円	入会金@1,000×60、会費@3,000×80、@9,000×5
懇親会収入	325,000円	総会懇親パーティー@5,000×35、新年会@5,000×30
雑収入	42,419円	総会懇親パーティー寄付金他
前年度繰越金	1,487,581円	
合計	2,200,000円	

〈支出の部〉

費目	予算額	摘要
通信費	450,000円	郵送料、はがき代
事業費	200,000円	会報制作費他
事務費	50,000円	事務用品、幹事会賃借料、交通費他
懇親会費	350,000円	総会懇親パーティー・新年会飲食費他
交際接待費	100,000円	留学生の集い・他支部への包み金他
雑費	50,000円	郵便振替手数料、学員時報広告料他
次年度繰越金	1,000,000円	
合計	2,200,000円	

決意新たに 49年白門会第1回の 総会が開かれる!!

『49年白門会』が発足して1年。21世紀最初の総会が6月30日、後楽園の理工学部校舎で開催された。支部旗も準備され、同期会としての活動も順調に形を成してきた。総会も懇親会も盛り上がった。

総会の会場は 理工学部校舎

6月30日土曜日、時々サッと雨が降ったかと思うと、カーッと陽が射したりした、蒸し暑い梅雨空の午後「中央大学49年白門会」2001年総会が始まった。

前年の設立総会の会場とは違い、今回は後楽園にある理工学部校舎で午後3時から始まった。学生時代に体育の授業で来たことがあった人もいて、会場の教室では昔とは全茨様変わりした校舎に、驚きの声も聞かれた。

5月の学員総会で授与された「49年白門会」の支部旗を壇上の黒板に飾り、35名の出席のもと総会が始まった。山崎厚太会長が、この1年間を振り返った活動状況を述べながら、21世紀を見つめての「49年白門会」

の在り方を熱く語った。

来賓としてお招きした学員会事務局長の佐藤信昭氏からは、「49年白門会」が設立して1年間、順調に運営されていることに敬意を表するという言葉をいただいた。また継続することが重要であるという激励を受け、身の引き締まる思いがした。

大谷洋一氏を議長に選出し、4つの議案の議事に入った。第1号議案の「2000年度活動報告」を中島幹事長が、第2号議案の「2000年度収支決算報告」を後藤会計部長が、第3号議案の「2001年度事業計画案」を増田事業部長が、第4号議案の「2001年度予算案」を後藤会計部長がそれぞれ説明した(右ページ参照)。それぞれの議案に対して会場から「異議なし」の声と共に拍手で可決された。

大阪から参加された村田章氏から関西方面で分会を作りた、という

提案があった。幹事会でも、今年度の事業計画の一つに「大阪分会の設立」という大きな計画があったので、率先して協力してくれる会員の出現に意を強くした。

なごやかに 自己紹介

総会終了後、場所を理工学部校舎にある食堂に移して、懇親パーティーが開かれた。総会には参加されずこの懇親パーティーから参加された

方もおられて、40名のパーティーになった。

司会を村岡潤氏が引き受けてくれ山崎会長、来賓の佐藤信昭学員会事務局長からそれぞれ挨拶があった。乾杯の後、歓談になったが、昨年の設立総会以来の再会の人も多く、あちこちで話しの輪ができていった。

今年初めて参加した

という方も多く、奈良や大阪から参加された会員もおり、49年白門会が少しずつではあるが確実に成長しているという実感を待た。

司会の村岡氏のリードにより、全員の自己紹介が始まった。名前、学部、現在の仕事や近況を紹介しあった。卒業して27年経って一言では言い表せないそれぞれの人生があるのだが、1、2分の自己紹介でも、その人となりが垣間見られて楽しい時間になった。

総会でも発言した大阪の村田氏はここでも大阪



分会のことを熱く語ってくれた。関西パワーを見せつけられた思いがし、大阪分会設立も時間の問題と確信するようになった。恒例のピクニックも有り、最後は校歌を高らかに歌ってお開きになった。

外に出ると蒸し暑い夕方であったが、近くの居酒屋での二次会に20人近くが集まった。明日が日曜なので、心行くまで飲んで喋って学生時代に戻った勢いで、二次会へ繰り出したグループもあった。同期と飲んで喋ることが、楽しみになってしまっ今日この頃です。

会員からの
エッセー

50歳になって思っている何…!?

大学を卒業して27年。年齢も、一番若い人でも50歳になってしまっています。「50歳。特別な響きを感じます。季節で言うて、皆様にとっては何時でしょうか? それぞれの50歳の思いを、会員の皆様からエッセー風に書いて頂きました。」

50歳になって思うこと

荒木 康裕(法)

東京都 大田区

自分はいつまでも若いと思っていた。階段を3段跳びするのが当たり前だと思っていた。若い女性と話しが合うのが当然と思っていた。

子供が成人式を迎えるのがいぶかしくなった。嫁さんの皺が増えるのもいぶかしくなった。

でも、50歳になったある日、免許証の更新をして、3年前の自分と今の自分が並んだとき、この3年の長さには突然と自分がいた。

そこに伸び縮みする時間があつた。加速度がつきはじめた時間があつた。

ふと、嫁さんの皺がいとおしくなつた。若い女性の論理に違和感を感じるようになった。子供がはいしゃいでいた頃が、思い出されるようになった。

こうして歳を取るんだなあ。こうして自分の老後を考えるんだなあ。

人生50年、これから50年、というところでしょうか。

50歳は人生の半分

安藤 正幸(経)

東京都 杉並区

日本人の平均寿命は80歳、二人になり一人は80歳以上生きるということになり。私は49年に卒業して12年経た頃、ふと自分の人生をこのまま終わらせたくないと思ひ、34歳で転職を決意しました。

そして新たな職場で10年、それなりの地位と安定した人生を歩んでおりました。

「あれから10年もうじき45歳、四捨五入で50歳だな。60歳定年を思うと本当に人生は短いなあ」と感慨というか、寂しい思いで居りました。

そんなある日「転職の話があるのですが」という中大OBからの1本の電話で、またまた先の見えた人生で終わりたくないとの思いに火が付き、44歳で全く異業種にチャレンジすることにしました。

子供も高校、大学を控え、こんなに言われました。女房は「あなたの人生です、後悔のないようにしたら。でも、ちゃんと生活費は入れてね」の一言でした。

あれから5年、もうすぐ50歳です。

50歳誕生日を目前に思う事

石川 晶雄(経)

神奈川県 横浜市

白間出てから27年、会社の中で若手と言われなくなったのは、もう忘れたぐらいの昔。その後いつの間にか相撲取りが私より若くなり、ついには野球選手のベテランクラスまで気が付いたら皆年下になっていました。そんなことを思う時、50歳という言葉に黄昏た響きが含まれてしまうような気がします。

先日、中学校の卒業35周年記念クラス会があり参加してきました。全員50歳です。同期5クラス合同の会であり、当時の担任の先生も全員揃って楽しいひとときを過ごしました。ほとんど35年振りの人が半数おりました。しかし、教師の顔はすべて分かりましたが、同級生の方は名札を見てもなかなか名前と顔が一致しませ

ん。しかし少しずつ話しをしていくと、初めはこの小父さんかと思えた顔が、中学生の時の笑顔に変わっていくから不思議です。

私は新入社員の時、30代の副長は中年の小父さん、40代の課長はお爺さんに見えました。私も若手からはそう見られていると思いつつ、自分は少なくとも精神的には若さを、入社時の気持ちで持ち続けていこうと思つていきます。

50歳は豊穡の秋

大竹 力三(法)

埼玉県 鶴ヶ島市

うだるような猛暑の夏が終り、朝夕いくらか過ごしやすくなったと感じるだけで、そのまま冬に突入していくような気分。それが50歳になった時(2年前)の気分でした。

ちょうど会社でも、編集の現場から管理部門に配置換えになり、昼夜の別無く時間に追われて慌ただしかった生活から一変、9時半出社、5時半退社のサラリーマンになってしまいました。走っていたのが急に歩き出したようなもので、年齢も生活も人生の黄昏時に差し掛かったななんて思つてしまいました。

しかしよく考えてみると、夏の次は秋です。9月10月は穏やかな実りの秋が訪れます。稲は黄金の穂を垂れ、果実はたわわに実ります。50歳つてこの豊穡の秋の季節だと思いませんか?

今年の秋は、アメリカの同時多発テロ事件以後、秋という季節感が無くなってしまった感じがします。景気は冬に入ったみたいで、不況やリストラで50歳前後の男達はすっかり元気を無くしている気配ですが、今こそ元気を吹き出さなければいけないと思ひます。

50歳になると「最後の転職」「最後の恋」「最後の挑戦」など「最後の」という言葉を使い勝ちですが、まだまだ若いのです。人生まったただ中で。何もしないで、20年後に振り返った時に「あの頃は若かったのにな」なんて後悔しないように、恋にも新しい仕事にも挑戦すべきです。いまやらなければ何時やれるのですか。秋の先には厳しい季節が待っているのですから。今のうちに、うんと楽しむがいい、喜ぶがいい、そして哀しむがいい。がんばれ50歳!

ああ半世紀が…

小林 隆宣(法)

東京都 八王子市

「ちよつと痛いですよ」と、やさしい声だが、なぜか冷たさを感じる。やや太めの注射針が、左腕の血管を探している。やさしくも冷たい声の主の指先が腕の腹を叩く。ピタピタと空救のないのがなんとも腹立たしいが仕方ない。明日手術のための血液検査だから今はじつと耐える。

血液採取のガラス管のラベルに漢字で私の名前がボールペンで書いて

ある。決して綺麗な文字では書かれていなかった。生まれて初めての手術だと言うのに、何とも事務的な味気の無いシステムの上に乗って流されていくようだ。

全身麻酔はまだまだ確立されていない医療分野と聞く。場合によっては命を落とすこともあるというので、いささか不安な気分だ。

チクッと左腕に突った痛みが走った。いよいよ血液採取が始まったのか。ガラス管が3本も用意されているのが見える。思ったより大きなガラス管に少し動揺を覚えた。

ことの外冷静を保とうと、頭の中はいろいろなことが浮かんできては消えていき、かなり激しい回転をしているかのようだ。

3本目のガラス管が用意され、採取が始まる。ラベルが見え、先程の事務的で味気のない文字で書かれた私の名前がハッキリと読める。そして見慣れない数字が見て取れた。それは「50」と書いてある。「何の数字だろうか」と、暫く考えてしまった。

「はいいい終わりました。強く押してくださいね」と、左腕に小さなガーゼがあてがわれ、私の右の人差し指が注射針の代わりになった。あの「50」は何だったか？

次の検査に向かう病棟の廊下をスリッパのペタペタという音を聞きながら、「50」の数字が頭の中を回転した。

「そだったか。年齢だ」

私は今年の8月に誕生日を迎え、そして50歳。血液採取のガラス管の名前ラベルに書かれたあの数字が私の年齢。半世紀を迎えた私自身の自覚は小さなラベルに書かれた「50」の数字だった。50歳を自覚した、とても小さなラベルに書かれた数字だった。

50歳になって思うこと

利根川宣保(商) 埼玉県上尾市

今興味があるのは、トトというサッカーくじです。初めは、1等を当てて車を買う予定でしたが、当てる前に車が壊れてしまい、買った車のローンの返済のためやっています。

中大時代は、サッカー同好会に2年半くらい所属していました。サッカーはまず足が早く、かつ先を読んで行動することが要求されます。その点鈍い私には無理がありました。が、それなりに学部対抗の試合には参加しました。

サッカーをやっていた良かったと思うのは、20年前、本場英国に半年いた時に、公園で現地の人(素人)とサッカーをやり、あんまりうまくないな、と実感できたことです。

またその時、滞在先で「スポーツボール」という、ゴール前の写真から何処にボールがあるか推理するクイズがあり、そこのお爺さんにコツを教えてあげたら、賞金を得ることができて喜んでくれました。

今はサッカーをやっていませんが、トトやワールドカップの観戦等、

台湾同窓会交流同行記

サッカーから離れられない人生を送ろうと思っております。オーレ!

増田勝美(法)

平成11年の秋、第2次世界大戦中に卒業式ができなかった台湾出身の中大生の卒業式が、台湾であった。これを契機に翌年の1月に『日華友好会』という支部が結成された。交流会で訪台した会員からの報告です。

空の旅が心配される10月初旬、中央大学学員日華友好会の先輩と共に、台湾へ出かけた。この頃の台湾は、台風のため30人以上の死傷者が出、水害で地下鉄は長期に渡って不通となっていた。時恰もアメリカの惨劇の陰で、日本に於いてその情報は広く伝わる事なく過ぎ去りつつあった。

さて、台湾到着日の晩、同窓会の皆さんと交流会を持ち、大学時代のこと、現在の社会活動などの楽しい話題の中で時間が過ぎていった。

台風災害後、まだ日数も浅く、その後片付けの慌ただしさの中という事もあってか、同窓会の皆さんは多くおいでいただけなかった。状況は察していたが残念であった。

そんな中、中央大学は台湾ではあまり知られていないが、これから頑張っていくましよう、という同窓会の方からの声高らかな発言は、大いに爽やかな交流であり、楽しい思い出となった。友好会の先輩のお誘い

で、誠に有意義な旅に参加でき、嬉しかった。最後に、日華友好会では、台湾における中大卒業生の皆さんとの親睦交流に賛同される学員の入会を募っております。「49年白門会」の皆様で関心のある方は是非どうぞ。



中正記念堂にて。左端が筆者の増田氏。

事業部掲示板

新年会

前回は大雪の新年会でした。今回は交通の便がいい銀座で行います。多数の会員の皆様の参加をお待ちしております。

グルメの会

企画募集中心
ハイキングの会
企画募集中心

日時 平成14年1月26日(土)
午後3時~5時
会場 5千円

場所 Sunimi 高松

東京都中央区銀座6-1-3-9
TEL 03-5568-13300

*それぞれ楽しい企画案を事務局に
ご連絡ください。

在学中に活躍した同期のスター



吉田 親(法)

昭和49年1月2日は箱根駅伝の苦しい思い出と、級友の温かさを今でも忘れる事は出来ない。

5区山登り。中央大学駅伝主将としての気持ちで鉢巻を締め、小田原中継所で引間金夫君から8位で襷を受け山に入った。箱根湯本、大平台、宮の下、箱根小涌園、恵明学園と懸命に走ったが何かピリッとせず、大東大に抜かれ漸く七曲がり付近で東洋大を抜き、杉並木を通り芦の湖畔に8位でゴール。区間7位(1時間19分2秒)は、全日本インカレ一万余優勝者の力を出し切れずブレキの状態であった。駅伝主将の大任を果たせず、大学関係者、陸上競技部OB会、チームの仲間や応援して戴いた皆様方に大変ご迷惑をお掛けした。

今でも悔しさが残る駅伝であるが、坂本多君(現足利銀行熊谷支店長)をはじめ級友が「頑張れ吉田親選手中央大学法学部政治学科二十一年級友一同」と手作りの旗で、小田原から芦ノ湖畔まで応援してくれ、大変嬉しく有り難かった。

箱根駅伝の思い出、そして現在

お正月恒例の「箱根駅伝」。伝統ある駅伝の主将として、箱根の山登りで激走した同期がいた。在学中に活躍した同期にスポットライトをあててみた。

卒業後総合電機メーカー日立製作所に入社し、名古屋で勤務している。情報システムの品質保証部で、製造の上流工程から品質の作り込みの為に、見えにくい情報システムの品質を如何に見える様にするか悪戦苦闘の日々で、設計部門には時に口煩く、嫌われ役に徹し日夜取り組んでいる。

社会人の糧もリレー中!!

仕事以外では中央大学OBとして活動している。中央大学学生会名古屋支部では常務理事として、支部総会の準備、当日の運営などに携っている。中央大学出身大相撲力士を励ます会や、中央大学吹奏楽部東海地区での演奏会などの動員も積極的にやっている。

運動部出身という事で、各運動部OB横の連携と懇親を深める目的で8年前に中央大学学員体育会中部懇話会(会員約4百余名)を組織し、事務総局次長として毎年秋に行う総会、講演会に取り組んでいる。昨年は少林寺拳法部OB元外相高村正彦

衆議院議員を招聘し「日本の外交」と題して、貴重な講演を戴いた。今年に入り9月に発生した米国同時多発テロで高村氏は、日本の特使としてイランなど中近東を回られている。米国と中近東の歴史的な背景や事情などが、昨年の講演内容から関係がよく判る。今年にはシドニー五輪で活躍した中央大学水泳部選手(男女)を招聘し、10月20日に実施した。

又、出身母体の陸上競技部OB会関係では、名古屋支部事務局長として全日本大学駅伝(毎年11月)に出場する中央大学選手監督激励会を毎年行っている。今まで応援幟や小旗が無く寂しかったので、学員会名古屋支部長兵藤俊一先生(弁護士)のご厚意と学員会名古屋支部会計からのご支援もあり、これらを作りスタート熱田神宮からゴール伊勢神宮まで、声をあげて応援をしている。

全日本大学駅伝を前哨戦にして、今や正月恒例の箱根駅伝で、中央大学が「三十二年振りの総合優勝」、「三十七年振りの往路優勝」といったタイトルが、新聞、TVなどを賑わしている。これらの成果が当地で行っている激励会も一翼を担って結びついているとしたなら、陸上競技部OBとして大変嬉しい限りです。今後もお世話になった中央大学に少しでもご恩返し出来ればと、私なりに取り組んでいく所存である。

前日の秋晴れから一転、冷たい秋雨の降る日曜日午後、第12回中央大学ホームカミングデーの懇親パーティーが始まった。司会は同期でNHKアナウンサーの葛西聖司氏。悪天候のためか、昨年よりも会場には人が少なく、昨年はアツという間になくなった料理も飲み物も今年には余るほどだった。

「ホームカミングデー」に参加して

10月28日(日)

我が「49年白門会」は、一つのテーブルを陣取り、幟を側に立て同期の集結を目論んだ。その結果、入会者が1名、いまままで総会や新年会に参加したことがなかった全員が6名も集まってくれ、総勢18名の大軍団になった。

総会、新年会、観桜会等で新しく参加して同期が増えてくることはとても頼もしく思う。最初は皆見知らぬ同期です。回を重ねるごとに知人が増える喜びがあります。樽酒の日本酒やワインを片手に、近況報告や学生時代の話で、2時間が瞬く間に過ぎてしまっただけで、残念ながら今年は、恒例の福引きには同期からは一人も当選者が出なかった。

お開きになって会場の外に出ると、まだ冷たい雨が降り続いていた。1月に開かれる新年会での再会を約して帰路についた。

山崎司平法律事務所
 第二東京弁護士会所属
 日本弁護士国民年金基金常務理事
 中大法学部非常勤講師

辯護士 **山崎 司平**
 東京都中央区銀座3丁目10番9号 共同ビル6階
 電話 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280

— 主要取扱申請書類等 —

- ◇ 建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇ 風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇ 外国人在留手続・帰化・国際結婚作成
- ◇ 遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行
 行政書士 **増田勝美** 電話 03-3713-2299

大阪分会
設立を!!

集まるうづやないか!!



村田 章
(経) 大阪府三島郡

ご存知ですか? 49年に中央大学卒業同期で「49年白門会」が結成された(ただし、主に関東地区ですが)、活動しています。私、大阪出身の村田章と申しますが、6月30日に後楽園校舎にて開催された総会に出席してきました。

我々も50歳前後になり、昔を懐かしむ年齢になってきました(未だ早いですか?)。総会と引き続き行われた懇親会にも出席させていただきましたが、全員の方が初対面でした。しかし、同じ駿河台校舎、又は後楽

グルメの会
設立準備行

蕎麦と饅頭は
神田に限る!!

8月4日土曜日の午後、御茶の水聖橋のもとに、女性二人を含む49会の有志12名が集った。今後の事業企画の試みとして、グルメ巡りを計画したのである。

ラフな格好で集合したが、お互い年は隠せない。葛西聖司氏を案内人に、ぶらぶらと炎天下の神田の町並みを歩き始めた。洋食「松栄亭」を

園校舎で学んだ(?)同期生と思えば、初対面という意識は五分ほどですっかり無くなってしまいました。関東でこのような活動をしていたなんて事は全く分からなかったのですが、同期会っていいもんだなー、と思い、是非関西でも分会を設立したいと思いました。

私の意向を総会、並びに懇親会で申し上げたところ、幹事会の皆様から、全面的に応援するから是非責任者になって分会を設立してくれ、と激励されました。

9月に大阪支部総会がありましたので、49年卒業の方を探し大阪分会設立の話を立てて頂くかと出席しましたが、49年卒業の出席者は私だけでした。

過ぎ「かんだ蕎麦」の気取った店内を恣意に眺めながら、目的の「神田まつや」へ向かう。

土曜日の午後なのに店は満員。空いた席からバラバラに卓に着く。「取り敢えずビール」がとにかく旨い。気が付くと昼間たというのに冷酒の徳利が並び始めた。つまみは葛西案内人お勧めの「棒鱈」「焼き鳥」等々。

同じ時代を4年間共有した同期にしか判らない事柄や話題がありま。学部を問わず、49年に中央大学を卒業された方、大阪分会を結成しましょう。もちろん、中国、四国、九州地区の方も参加してください。

です。楽しい会にしたいと思います。ご連絡ください。
連絡先
村田 章
住所 大阪府三島郡島本町山崎
2丁目1-2-1306
電話 075-9617378(FAX兼用)
Eメール michaelm@osk12.co.jp



いつの間にか背中合わせの2卓に12名が揃っている。こうなると、酒量もドンドン進む。葛西案内人から「つまみも美味しいから蕎麦は最後。次の店があるからたくさん食べちゃダメ」と言われていたが、我慢できずに橋本氏とこっそり「こま蕎麦」と「もり」を頼む。すると、瞬く間に全員が蕎麦を注文し始めた。水切れの良い蕎麦をズズズと吸る音が響き渡り、酔いも手伝いなんとも言

えない優雅な至福の時間であった。「まつや」を出て、ほろ酔い気分のまま、あんこう鍋「いせ源」の向かい「竹むら」で口直し。揚げ饅頭、あんみつ、汁粉と食欲旺盛、口数多しの同期たちであった。

この数時間で学生時代に戻ったように、話題は尽きなかったが夕刻になり、次回「グルメの会」の構想を抱きながら散会した。(原 伸止)

電気設備・設計施工 **FUNAMI**
栃木県庁 宇都宮市役所指定 関東一円
株式会社 船見組
代表取締役社長 船見 二三男
〒320-0014
栃木県宇都宮市大曾5丁目3番6号
TEL 028-622-0321 (代)
FAX 028-624-4499

永六輔さんも「待ってましたア」とご推薦
名セリフの力
—日本語をきたえる76のことば—
NHKエグゼクティブ・アナウンサー 葛西聖司 著
「知らざア言って聞かせやしよう」「お若えの、お待ちなせえ」……誰でも知っている名セリフから、日本語の豊かな表現力を学び、会話を強くする。
四六判上製 278頁 定価1780円(税込)
展望社 東京都文京区小石川3-1-7 ☎03-3814-1997 FAX 03-3814-3063

同期会ってここがグーッ!!

後編 集記

元気が一番です!!

出身地も年齢も同じ

小学校、中学校、高校の同窓会とは異なり、大学の同期会はちよつと違います。年齢が1、2歳違うのは当然で、夜間部や通信教育の同期の人達とは10歳以上違うこともあります。勿論出身地も別々です。

「49年白門会」が設立して1年5か月。総会、新年会、観校会等を通して会員の皆様からの同期会の良さの生の声を集めてみました。

★初めは知ってる人が誰もないので、参加するのが億劫だったが、5分もしないうちに気分は学生時代に戻っていた。

★上下関係がなく、社会的に偉い人でも対等に飲める。こういう風に飲めるのは素晴らしいことです。

★同じ仕事の悩みを持ったもの同士が、利害関係を考えることなく話せるのが良い。

★25年以上の社会経験を積んできたその道の人達の話には勉強になることがたくさんある。

★50歳にして、新しい趣味を共有する仲間に出会えた。こんな出会いが有るとは予想もしていなかっただけに嬉しい。

★異業種交流の場でもあるが、気兼ねや遠慮がなく話せる。こういう関係は同期会以外では作れないと思う。

★これから30年以上ある人生に、期待が持てる道を見つけられるように。大事にしていきたい。

★という事で、こんなに楽しいことが持ち受けている「49年白門会」にもっと同期の仲間を参加させてはどうでしょうか？

大きな輪になれ 「49年白門会」

「中央大学49年白門会」も結成して1年半が経ち、会員数も二百数十名を数え、順調に活動を続けております。

春の「観校会」、秋の「ホームカミングデー」を中心とした活動に、会員それぞれが中央大学で過ごした青春時代をオーバーラップさせながら、輪を広げていっております。幹事一同、この素晴らしい輪をさらに大きくして行こうではないかと考えております。

現在、会員の皆様が社会や地域で様々な重責を負われ、活躍されていることと存じます。その重責も既に十年を切られた方が多くなつた今日、我が同期会で再会し、青春を語り、励まし合つていこうではありませんか。まだ産声を上げたばかりの「49年白門会」を、是非皆様のお力で大きな輪として花咲かそうではあります。

私は今年50を迎えた。在学中の頃50歳と聞いても、自分には想像もつかないはるか彼方の存在に思っていた。何しろあの頃は、現在の自分を大事にしたいとの思いで、スキーや登山に明け暮れ、1年のうち半分近くも東京にいなかったこともあった。だが今は違う。これからの10年、20年をいかに楽しく健康的に過ごすかを考える。同期会のメンバーと居

酒屋で盛り上がることも楽しいし、家族との行動もしかり。また、脳細胞の活性化のために自己啓発することも重要な。だが、それには健康で元気が一番だと思ふ。

私は経済学部25組出身だが、哀しいことに身近な級友二人をガンで失っている。一人は高庭敏雄君、卒業後某地銀に就職したが2年後の初夏に亡くなっている。もう一人は、神

会費の納入についてのお願い

中央大学49年白門会会計担当

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

①郵便振替 (手数料は不要です)

振替口座番号「00180-3-196081」

口座名称「49年白門会」

②銀行振込 (振込手数料が必要です)

銀行名 東京三菱銀行日野市役所支店 普通預金「0569115」

口座名 49年白門会 代表 山崎厚太

49年白門会連絡先・事務局

※住所・勤務先変更、メールアドレスの登録、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。

※年2回発行するこの会報へ、広告の出稿、詩、俳句、エッセー等の原稿、企画案、ご意見をお寄せください。

49年白門会副会長 宮川 保
中央大学学生会事務局 電話 03-3219-6175
FAX 03-3219-6177

「創立125周年記念プロジェクト」発足!

中央大学は平成22年に創立125周年を迎えます。

このプロジェクトの目指すものは、中大を21世紀における新しい社会を創造する高等教育機関にし、「世界の中で存在感のある大学」を実現させることにあります。

総力をあげて取り組むこの大事業に、支部として協力しなければいけないと考えています。

追って、学委員会の方から詳しい案内状が届くと思いますのでご協力お願い致します。